

アカデミズムの公正な判断は学会に頼らずに、自分たちでできるという自負を持っていましたから、学位授与を与えた側の責任は重い(鈴木博之、青山学院大学教授)。
今まさに建築は、科学と称したアナリシスに行き過ぎています。だから、価値観と現状認識、方向性を失い、立体的な位置づけができなくなっているのではないのでしょうか(西澤英和、関西大学准教授)。



特集 東大建築学科は大丈夫か?

アカデミズム再考

- 鈴木博之「大学の社会的役割は学位授与権。学位を与えた大学の責任は大きい」
- 西澤英和「歴史観なき研究者によるタコ壺的状况。大学は権威や利益と無関係であるべき」
- 竹山聖「建築家に博士号は必要ない。しかし、他者の倫理に触れられる大学の役割は大きい」
- 宮本佳明「コンペのプレゼンをまとめるように著書を論文に変換」
- 五十嵐太郎「建築アカデミズムにおける姉齒事件。「セルカン問題」とメディアを考える」
- 南後由和「建築の「際」を見極めて 建築の固有性と可能性を追求」
- 倉方俊輔×松田達「『セルカン問題』は、アカデミズムの民営化か」

消え行く燎
宮内嘉久氏 追悼
永田祐三

各地域に拠点を置く設計事務所
の作品集
建築集

オープンハウス⑤
眉山の家
吉田周一郎



美的構造設計の世界⑭
播繁「13世紀欧州のゴシック建築・20世紀米国の超高層建築」
オビニオンの視線
現代アートを生み出す
「閉じながら開く」アトリエは、
知的障害者の生活を守る福祉の場
— 今中博之



地域の話題

つくり手三代、
世田谷美術館で
内井昭蔵展